

本日の為替見直し

ポイント

首相は経済が、過去数十年に渡り、「不十分な競争」、「不十分なインフラ」、「官僚主義」により、経済と社会が阻害され続けてきた……。これは別に日本のことではなく、モンティ・イタリア首相が先週末に、8時間の長期間協議の末にようやく承認することが決まった、イタリアの経済成長の第2次パッケージを承認した後の、発言である。

◎ギリシャ政府と民間債権団体との交渉は、20日、21日も決着せず。

WSJ紙は「21日の協議にも行き詰まり、ギリシャが将来の債券保有者に支払う金利で意見が相違、民間銀行団の交渉責任者はアテネを離れた」とあり、民間債権団体の代表者でもある国際金融協会(IIF)広報担当は21日に「ギリシャ政府との債務交換交渉が決裂したとの報道を否定」。本日、23日のユーロ圏財務相会合でギリシャ第2次支援の協議が予定されているといわれるが、もう、後がない……。

◎安定しているユーロ圏の債券相場は今後も続くのか？

ECBによる無制限資金流動性の供給に、S&Pによるユーロ圏9カ国の格下げでも、債券利回りは格下げ前より低下傾向が続き、20日のフランス、スペイン長期債の入札は好調で、市場はひとまず安心感が広まり最近のEUR買いになっているが、この流れが継続するのかわり断は許さない。大手格付け会社に先行して格付けを変更していると注目されている、米格付け会社のイーガー・ジョーンズ社がドイツの格付けを、1段階格下げたことで、ユーロ圏諸国の更なる格下げのリスクが気になっている。それに、フィッチは今月末までにユーロ圏6カ国(スペイン、イタリア、アイルランド、キプロス、ベルギー、スロベニア)の格付けを1~2段階見直しを発表するといわれており、ギリシャのデフォルトは避けられないとのフィッチの発言や、ムーディーズの今後の動向も気になる。

◎日本や米国の格付け問題も今後の課題として残る？

海外勢の中には次の格下げターゲットになりやすい日本や米国債の格下げ有無を注目しているとも言われる。日本国債は消費税の引き上げが決まらず、政治の混乱に格下のリスクが指摘され、米国もオバマ大統領が提出している米連邦債務上限引き上げが米下院で否決、こちらも格下のリスクが指摘されている。

◎GBPの上昇は続くのか？

先週の後半から数日間上昇しているGBPは、25日に発表される英第4四半期GDPはマイナスになった可能性が高く、今年の第1四半期の成長も低いことが予想され、2月9日のBOE金融政策委員会では、資産買入枠の拡大が予想され、金融緩和の可能性が残る。

◎EURCHF1.200を維持できるのか？

スイスはスイス政府・中銀は、スイスの対ユーロ相場1.200の上限(EURCHF1.20の下限)を断固と阻止することを公言して止まないが、EURCHFは6営業日連続して1.2台後半で終了し、きわどい水準まで追いやられている。

◎本日の注目点

- 1月23日 ユーロ圏財務相会合、●ギリシャ政府と民間債権団体との交渉の行方(21日にも決まらず)
- ◎EU外相理事会
- ◎フランス短期国債入札、ドイツ短期国債入札

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25日指数移動平均線は1.2920、昨日は一時これを割り込み終値ではこの線を上回った。DOPup=1.3077、DOPdn=1.2425。スロー・ストキャスティックは%K=72.17、%D=53.29、買いが続き、ベース買われ過ぎゾーンに近い。
 EURJPY(日足) = 25日指数移行平均線は99.68、この線を上抜け買いに変化していたが、昨日は終値ではこの線を下回った。DOPup=100.44、DOPdn=95.75。スロー・ストキャスティックは%K=69.07、%D=51.28、買いが継続し、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。
 USDJPY(日足) = 25日指数移動平均線は77.15、この線を上限に、日中では前日に続き上待っているが、終値では引き続き下回っている。DOPup=78.48、DOPdn=75.71。スロー・ストキャスティックは%K=51.04、%D=51.62で買いが続き、ベースはニュートラルゾーン。

本日のCFD見直し

ポイント

先週金曜日には、Spot.WTI は大幅下落、Spot.Gold は上昇と異なる相場展開となった。市場では金価格の上昇はリスクアセットとしての連動性が薄れ、需要拡大によるとの意見もあるが、この上昇の流れが続くのだろうか。また、原油価格はイラン問題に決着がつく前に大きな修正を迎え、終値ベースでは昨年12月22日以来の安値となり、日中ベースでは1月13日の安値99.10が次のポイントとなり、この水準で下げ止まり再上昇へと変化することができるのか、続落となるのかが目される。

今週は欧州でギリシャ政府と民間債権団体との債務交換交渉が難航し、結論が出ずにおり、本日23日のユーロ圏財務相会合、24日のEU財務相理事会、そして、来週30日のEU首脳会議が控えている。また、25日(水曜)のFOMC、27日(金曜)の米第4四半期のGDPの発表が予定されており、相場変動のリスク要因は多い。

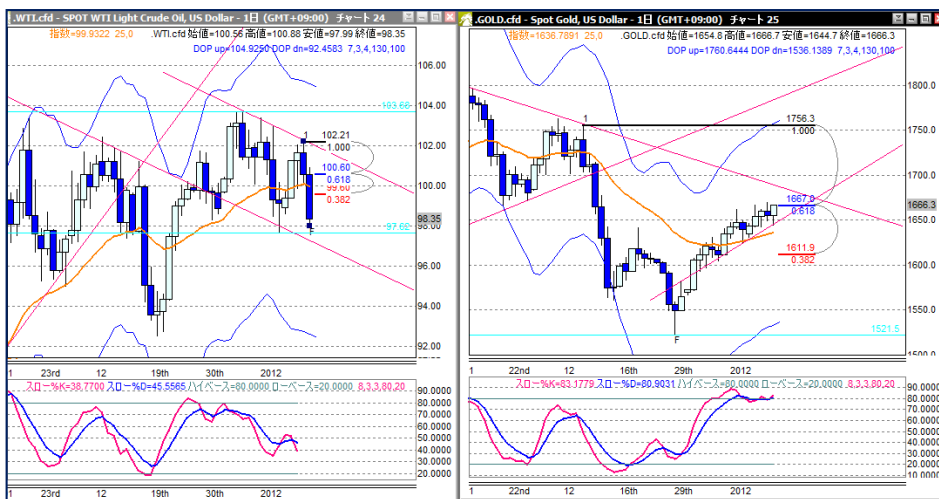
◎Spot.WTI (Light Crude Oil)

EMAは99.39で終値ではこの線を大きく割り込み2.12%の下落、ストキャスティクスも売りへ変化し目先の流れが変わった可能性も残る。上値のターゲットは、99.68、100.60。今後上昇を続けるには、下値のターゲットは97.62、97.22を維持できるか、注目される。

◎Spot.Gold

EMAは1636.79で引き続きこの線を下限として上昇トレンドが続いているが、ここ数日は1670近辺を高値に上げ止まりつつある。大きなダウントレンドの上限に近く、今週中にでも下げに転じるか、または、再上昇となるのか変化するリスクも出ている。上値のターゲットは、1667.0、1688.4。下値のターゲットは1646.2、1636.79、1611.9。

マーケット・レベル



Spot.WTI (Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 99.93、この線を割り込み売りに変化している。DOPup=105.08、DOPdn=92.62。スロー・ストキャスティクスは%K=38.77、%D=45.56で買いから売りに変化し、ベースはニュートラルゾーン。

Spot.Gold (.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1636.79、この線を下限に上昇が続いている。DOPup = 1757.51、DOPdn = 1533.01。スロー・ストキャスティクスは%K=83.18、%D=80.90で売り買い交錯、トレンドのある流れにしはつきりしない、ベースは買われ過ぎゾーン。

1月23日(月曜日) 注目の経済指標 その他

発言・その他

- ◎ギリシャ政府と民間債権団体との交渉の行方(21日にも決まらず)
- ◎春節(中国旧正月)で中国市場は休場(23日~28日まで)
- ◎ユーロ圏財務相会合(ブリュッセル) → S&Pの格下げによるEFSFの対応、ギリシャ第2次支援の協議が予定
- ◎EU外相理事会 → イラク原油禁輸措置を話し合う
- ◎ラガルド IMF 専務理事は、22日にメルケル・独首相、23日にはディルポ・ベルギー首相、ファンロンパイ EU 大統領と会談、
- ◎フランス短期国債入札
- ◎ドイツ短期国債入札

注目の経済指標

特になし

◎今週の注目点

- 1月23日 ユーロ圏財務相会合、●1月24日 EU財務相理事会、米大統領の一般教書演説、●1月25日 FOMCで政策金利の据え置きは固いと予想されているが、メンバーは政策金利のFFレートの金利誘導目標の見通しをグラフで公表することになっており、初めての試みとなるこの影響はどうなるのだろうか？ 英第4四半期GDPは前期比-0.1%の予想とリセッションのリスクも指摘されている。
- 1月27日(金曜)の米第4四半期GDPの予想は、前期比年率で3.0%(前回1.8%)と強い数字が予想され、他国よりも高い成長が予想され、ドルの買い材料ともなっている。 ●1月30日(来週) EU首脳会議(ブリュッセル)

1月23日(月曜) 本日の主な経済指標と発表予定

9:30	AUD 第4四半期 生産者物価指数=前期比予想 前回0.6%、前年比予想 前回2.7%
22:30	CAD 12月 景気先行指標指数=前月比予想 前回0.8%
0:00	EUR 1月 消費者信頼感=予想 前回-21.1

先週末(1月13日)の海外市場の動き

米株価は上昇(NYダウ+96.50+0.76%)、欧州株は下落(独DAX-11.87-0.18%、英FTSE-12.60-0.22%)、Spot.Goldは上昇(+9.90+0.60%)、Spot.WTI「Light Crude Oil」は大幅下落(-2.13-2.12%)

原油下落し金上昇、EUR下落しGBP大幅上昇、AUD・NZD上昇、ドル安、円クロスではEUR・CADで円高、GBP・AUD・NZDで円安と動きは色々異なる。主要国の債券利回りは昨日に続き大幅上昇。

1. 中国1月の製造業PMI48.8と12月の48.7より良かったが、景気判断の分岐点となる50を3か月連続で下回り、中国の経済活動が縮小の可能性が強まる。
2. スペイン国債入札は3年・6年・10年債と償還期限にかかわらず順調で、S&Pによる格下げの影響は限定的で周辺国への需要拡大が期待された。
3. フランス国債入札はS&Pによる格下げ後で初の10年債で、中期債入札は順調で、目標65~80億ユーロ、調達額は79.65億ユーロ、2040年のインフレ指数連動国際は、応札倍率は2倍以上、調達額は15億ユーロ
4. カナダの消費者物価は、前月比-0.6%、カナダ中銀コア前月比も-0.5%と予想・前回を大幅に下回り、利上げ期待が後退し、カナダドルは弱含みで推移した。
5. 米中古住宅販売は年換算で461万戸+5.0%と予想を下回り、住宅在庫は238万戸と2005年3月来の低水準となり、一時ドル売りへ傾いたが、11月439戸を上回り、前年同月比で+3.6%に拡大、経済で問題となっている住宅関連が過去数か月感安定し始めているとの観測もあり、ドル売りも限定的となった。
6. ギリシャ政府と、民間保有者の代表する国際金融協会(IIF)の協議は、ギリシャ紙が初期合意に達したとの報道や、合意とのウワサが流れたが、結局20日の合意はなく、日本時間1月21日午前2時半に再開と報道に、週末リスクと3日目を迎えた交渉の合意が遅れに、利食い売りが強まるEURUSDは1.30の大台を達成できずに値を下げた。(21日にも合意はなし)
7. GBPの上昇が目立った。確たる理由は見当たらないが、オプション絡みのGBP買いとの観測が流れる中、GBPUSDは欧州市場の安値1.5450→1.5570台の高値引けで終了、EURGBPは欧州市場の高値0.8370台→0.8300と安値引けで終了した。

USDJPY アジア市場と欧州市場は、77台を維持し前日米国市場の高値77.30台を試す買いが続いたが、失敗。結局は大枠77.05~30のレンジに終始。米国市場で欧州勢が取引を終了し始める中で、ギリシャ債務交換協議の合意もなく売りに変化、77.10、77.00のストップロスを付け一時76.90台まで下落したが、下げ幅も限定的。

EURUSD アジア市場は大枠1.2950~70の狭いレンジ相場の後、東欧・中東勢の買いが入り始める。欧州市場では前日のEUR買いの流れを受け、EURUSD1.3000の大台を試す買いに1.2986まで上昇したが、失敗。欧州株価も弱くギリシャ債務交換交渉が長引き、週末リスクを気にしたEUR売りに1.2890近くまで下落、フランス・スイス国債入札が順調で下げ止まり、大枠1.2890~1.2930のレンジで取引が続いた。米国市場では開始直後に一時1.2890割れまで下落から、米中古住宅販売件数が弱く1.2950近くまで上昇したが、IIF報道官が債務交換協議の記者会見を20日に予定していないとの報道に再び1.2920を割り込み、民間債権団との債務交換協議で暫定合意に近いとの報道にやや値を戻し1.2930で終了した。

AUDUSD アジア市場では、大枠1.0405~20のレンジから、中国製造業PMIの発表を受け1.0400を試す動きが続いたが、失敗。前日の高値圏となる1.0430近くまで上昇した。欧州市場でも前日の高値1.0432を超えることはできず、EURUSDの売りに1.0380台まで値を下げたが、EURUSDが下げ止まると1.0430台を再びトライ。米国市場では1.0410台を底値にEURUSDが伸び悩む中で、EURAUDの大口売りに1.0480台まで急伸、1.0450を安値に1.0485まで続伸し高値引けで終了した。

金・原油価格

◎EU 加盟国、23日の外相理事会で、イラン核開発計画の制裁措置となる原油禁輸措置や資産凍結を決定する

◎国際エネルギー機関(IEA)チーフエコノミスト、米国がキーストーン XL、パイプライン計画を認めない場合には、中国などの他の石油消費国がカナダの原油を購入することになる

◎EU 外交関係者、欧州連合(EU)各国政府は、イラン中銀の資産凍結を暫定合意

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

WTI アジア市場は、開始直後の100.43を底値に100.86まで上昇。欧州市場は、ギリシャ債務交換交渉への懸念に、開始直後から売りの流れが強く、99.50台まで下落したが、順調なスペイン・フランス国債の入を受けたリスクオンの流れ継続に100台を回復した。米国市場に入っても100台の上値は重く、米中古住宅販売は予想を下回り、ギリシャ債務交換協議の合意が遅れ、米国などの対立国がイランの核開発疑惑で協議する用意があるとの憶測のあり、利食いの売りが強まった。また、欧州連合(EU)によるイラン産原油禁輸措置の開始時期が、イタリア、ギリシャ、スペインが1年先送りを主張との報道も売りの材料にされ1642台まで大幅続落、1650台まで値を戻し終了した。

◎Spot.Gold

.GOLD アジア市場は、大枠1653~1658のレンジで取引が続いた。欧州市場に入ると、中国製造業PMIが3か月連続50の景気判断の分岐点を下回ったことが意識され、原油価格の下落に連動し1645台まで下落、大枠1645~49のレンジで取引が続いた。米国市場に入ると、原油価格との動きは異なり、実需の買いに1660の大台を超え買いが加速、1665を超えると売りも厚く上げ止まり、大枠1662~1667のレンジで取引から、高値引けとなった。

先週末(1月16日)の主な発言・出来事

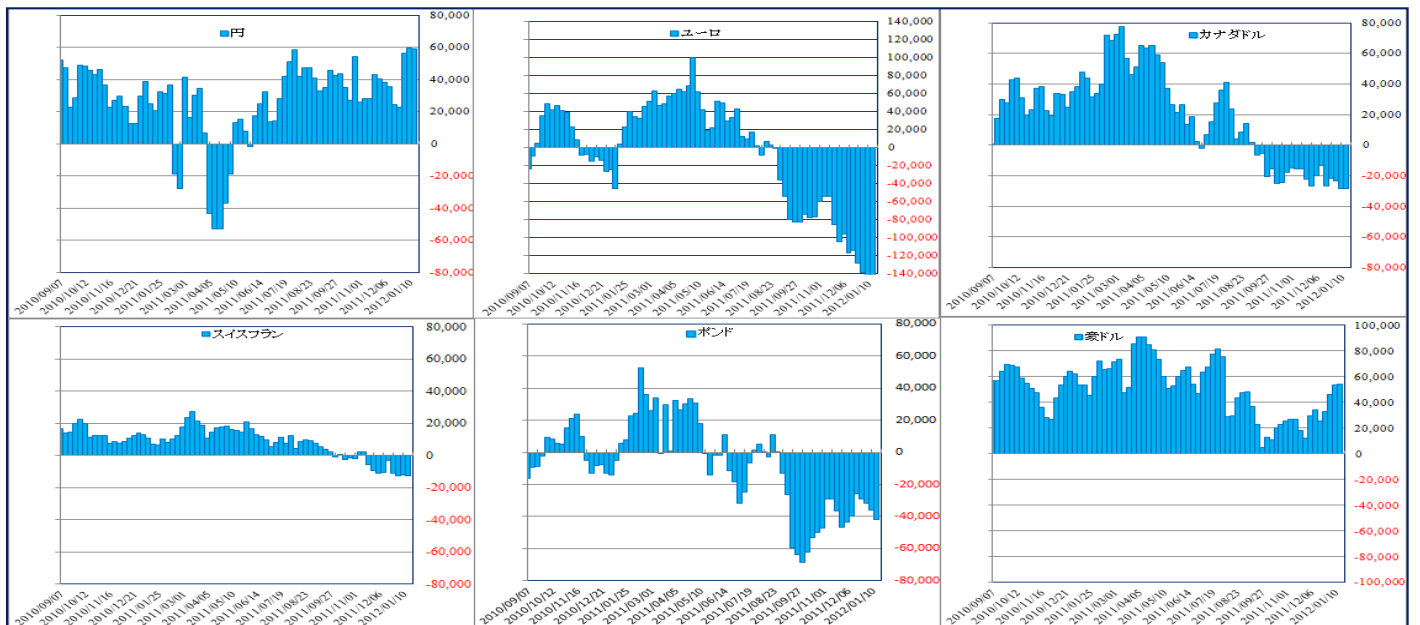
	ギリシャ民間部門関与(PSI)交渉関連
	ダララ国際緊急協会(IIF)専務理事・ルミエール氏 ＝◎ギリシャ債務交換協議は、整いつつある
	ギリシャ紙プロト・テマ ＝IIFはギリシャ債の自発的な交換条件で初期合意に達した ◎既発債を置き換える新発債の期限は30年でクーポンは当初3.1%、その後3.9%に上昇するが、場合によっては4.75%にもなりえる
	ベニゼロス・ギリシャ財務相 ＝◎民間債権者との債務交換協議は21日にも続く
	ダララ国際金融協会(IIF)専務理事 ＝◎アテネでのギリシャ債務交換協議の要素は整いつつある
	WSJ紙(21日) ＝◎ギリシャ政府と民間債権団の交渉は21日に行き詰まったもよう ◎ギリシャが将来の債券保有者に支払う金利で意見が相違、民間銀行団の交渉責任者はアテネを離れた ◎関係者によると交渉は23日のユーロ圏財務相会合まで終了しない可能性があり、この会合ではギリシャ第2次支援の協議が予定されている
	国際金融協会(IIF)広報担当(21日) ＝◎ギリシャ政府との債務交換交渉が決裂したとの報道を否定 ◎ダララIIF専務理事とルミエールBNPパリバ会長は事前の予定通りパリへ向かいアテネをはなれただけで、必要があればギリシャ政府指導者と電話で話しができる ◎専門家チームはアテネにおいて民間部門関与で政府当局者と協議する
	欧州関連
	イタリア成長支援策を閣議承認 ＝◎モンティ政権は経済成長パッケージを承認 ◎12月の300億ユーロの財政緊縮策に続く、第2の法制化は8時間と長時間協議で承認
	モンティ・イタリア首相 ＝◎イタリア経済は過去数十年に渡り、不十分な競争、不十分なインフラ、官僚主義により、経済と社会が阻害され続けてきた
	欧州連合(EU) ＝◎EU各国政府は、ECBの警告を受けメルケル・独首相が主張する財政強化を通じた債務危機対策を実施
	S&P ＝◎欧州連合(EU)の長期格付けを「AAA」で確認、格付け見直しはネガティブ
	フランス国債入札 ＝◎中期債入札は順調で、目標65~80億ユーロ、調達額は79.65億ユーロ、2040年のインフレ指数連動国際は、応札倍率は2倍以上、調達額は15億ユーロ
	スペイン国債入札 ＝◎2016、2019、2022年償還債、目標額45億ユーロ、総額66億ユーロ発行 ◎今年初の10年債入札は30億ユーロ調達、利回り5.403%(12月5.545%)→今年の必要借入れ額の19%を調達
	欧州連合(EU)報道官 ＝◎財政協定の協議は順調に進み、30日の首脳会議で合意の見通し
	欧州連合(EU)報道官 ＝◎ハンガリーは中銀の独立性を確実にする具体的な措置を講じる必要があり、金融支援の協議は前提条件が満たされてから
	モンティ・イタリア首相 ＝◎ドイツ政府はすぐにユーロ共同債を支持することはないだろう ◎政権が2013年末までもつかかわからない
	ザイベルト独首相報道官 ＝◎メルケル・独首相とキャメロン英首相は電話会談で、欧州の経済成長の強化と失業への対応で行動することが緊急に必要
CHF	ジョルダン・スイス中銀暫定総裁 ＝◎スイスフランの対ユーロ相場の1.20の上限をあらゆる手段で、恒久的に維持する ◎現時点で上限を設定する以外に他の選択肢はない

AUD	豪中銀、雇用情勢の悪化に利下げ見通し強まる
USD	FRB=メンバーが予想する政策金利(FFレート)の利上げの年を示す棒グラフと、今後3年間の年末時点とより長期の適切な政策金利の見通し予想を公表する
USD	オバマ米大統領=◎議会の承認を必要としない方法で雇用創出を推進するために努力し、24日の一般教書演説で、米国の製造業とエネルギー産業に弾みをつけるための措置を発表する計画
USD	米銀行が破綻=◎ジョージア州のファースト・バンク、フロリダ州のセントラル・フロリダ・ステート・バンク、ペンシルバニア州のアメリカン・イーグル・セービングス・バンク

先週末(1月16日)の経済指標と結果

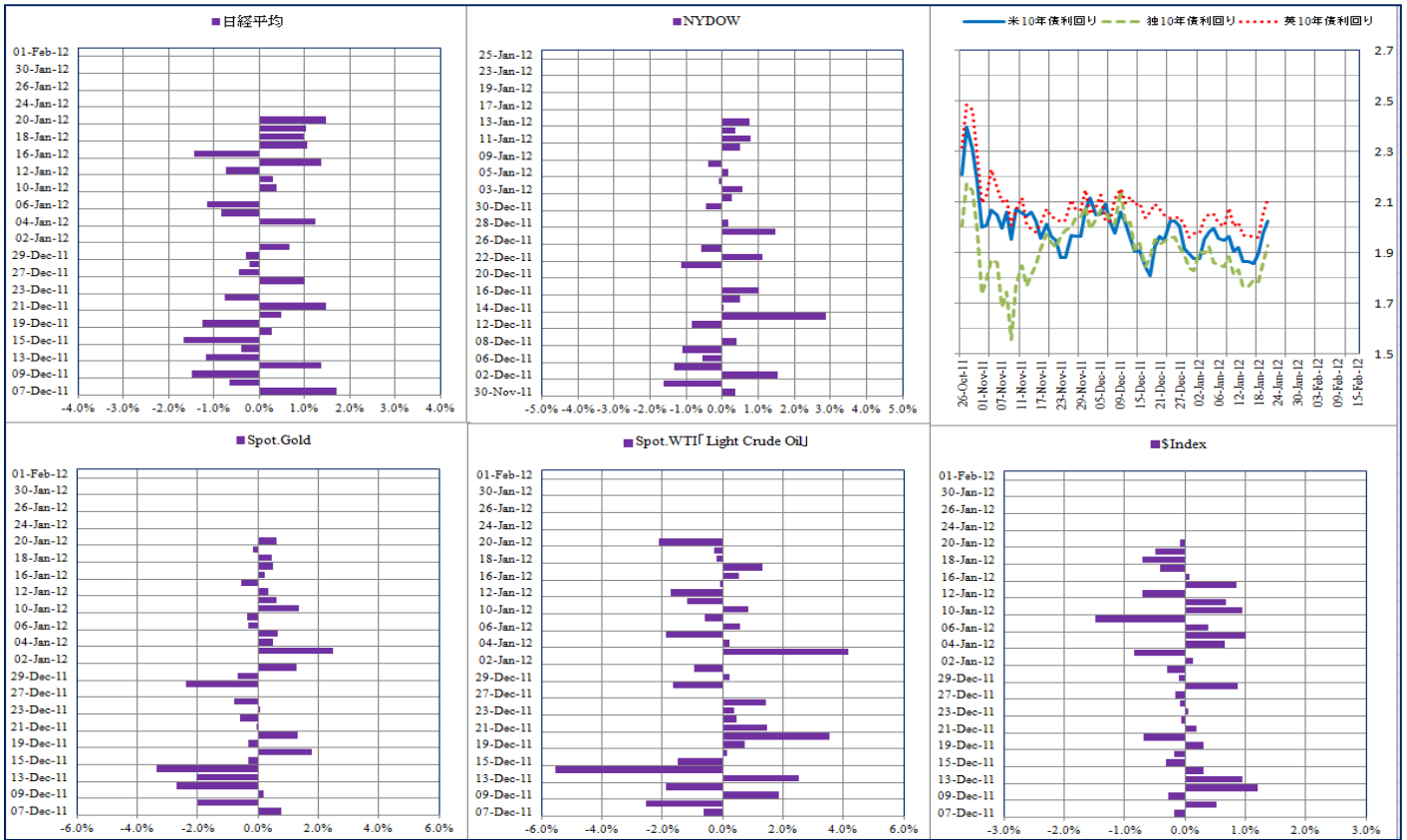
9:30	AUD 第4四半期 輸入物価指数=前期比2.5%(予想0.6% 前回0.0%)、輸出物価指数=前期比-1.5%(予想-2.0% 前回4.0%)
11:30	CHN 1月 製造業PMI=◎48.8(前回48.7)
13:30	JPY 11月 全産業活動指数=前月比-1.1%(予想-0.9% 前回0.8%)
14:00	JPY 11月 景気一致CI指数=確報=90.3(予想 前回90.3)、景気先行CI指数=93.2(予想 前回92.9)
16:00	GER 12月 生産者物価指数=前月比-0.4%(予想0.1% 前回0.1%)、前年比4.0%(予想4.6% 前回5.2%)
18:30	GBP 12月 小売売上高=前月比0.6%(予想0.7% 前回-0.5←-0.4%)、前年比2.6%(予想2.5% 前回0.4←0.7%)、除自動車燃料前月比0.6%(予想0.7% 前回-0.8←-0.7%)、前年比1.7%(予想1.7% 前回0.0←0.5%)
21:00	CAD 12月 消費者物価指数=前月比-0.6%(予想-0.1% 前回0.1%)、前年比2.3%(予想2.8% 前回2.9%)、カナダ中銀コア前月比-0.5%(予想-0.3% 前回0.1%)、前年比コア1.9%(予想2.2% 前回2.1%)
22:30	CAD 11月 卸売売上高=前月比-0.4%(予想0.5% 前回0.9%)
0:00	USD 12月 中古住宅販売件数=前月比5.0%・461万件(予想5.2%・465万件 前回3.3%・439万件←4.0%・442万件)

CFTC 発表の IMM 通貨先物の取り組み(1月17日まで発表)

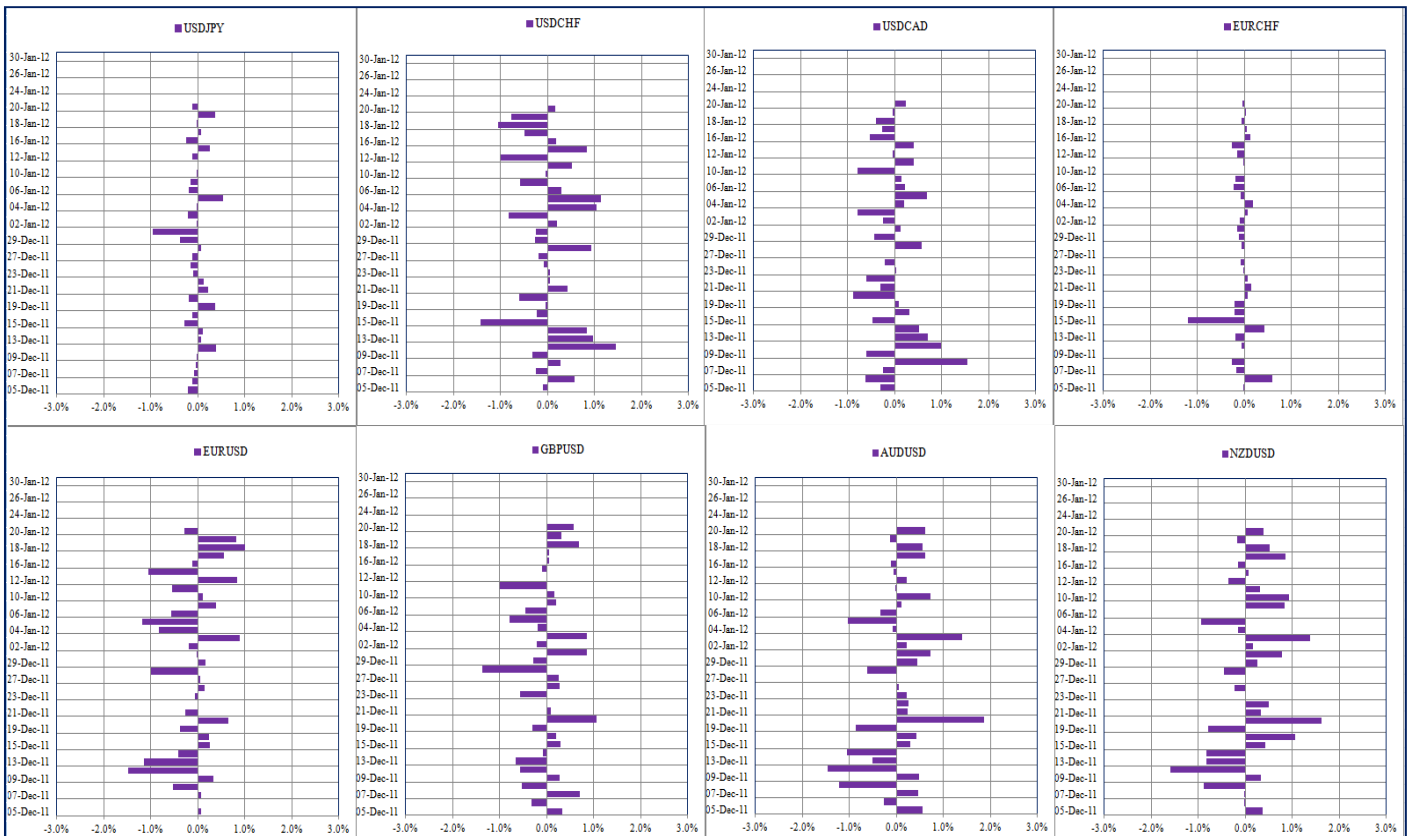


	円	ユーロ	ポンド	スイスフラン	カナダドル	豪ドル	NZドル
	Net	Net	Net	Net	Net	Net	Net
	円	ユーロ	ポンド	スイスフラン	カナダドル	豪ドル	NZドル
2011/10/18	26,907	-77,720	-53,226	-2,243	-24,795	20,353	8,225
2011/10/25	54,279	-76,512	-50,147	-1,203	-17,923	23,071	9,219
2011/11/1	25,904	-60,060	-47,092	-1,746	-14,820	25,866	10,655
2011/11/8	28,077	-54,257	-29,122	2,162	-15,568	27,016	11,550
2011/11/15	28,077	-54,257	-29,122	2,162	-15,568	27,016	11,550
2011/11/22	43,180	-85,068	-36,634	-5,870	-22,144	17,960	-15,568
2011/11/29	40,547	-104,302	-46,660	-9,327	-26,869	12,542	-17,215
2011/12/6	38,271	-95,814	-43,560	-11,158	-20,171	29,824	3,857
2011/12/13	35,600	-116,457	-39,509	-10,481	-13,385	34,429	5,383
2011/12/20	24,476	-113,697	-25,939	-3,136	-26,868	25,742	612
2011/12/27	22,585	-127,879	-29,172	-10,798	-21,812	32,637	1,405
2012/1/3	56,481	-138,909	-31,899	-12,355	-23,371	46,537	2,436
2012/1/10	59,657	-155,195	-35,853	-12,097	-28,649	53,526	5,029
2012/1/17	58,862	-160,030	-41,634	-12,822	-28,730	54,306	9,455

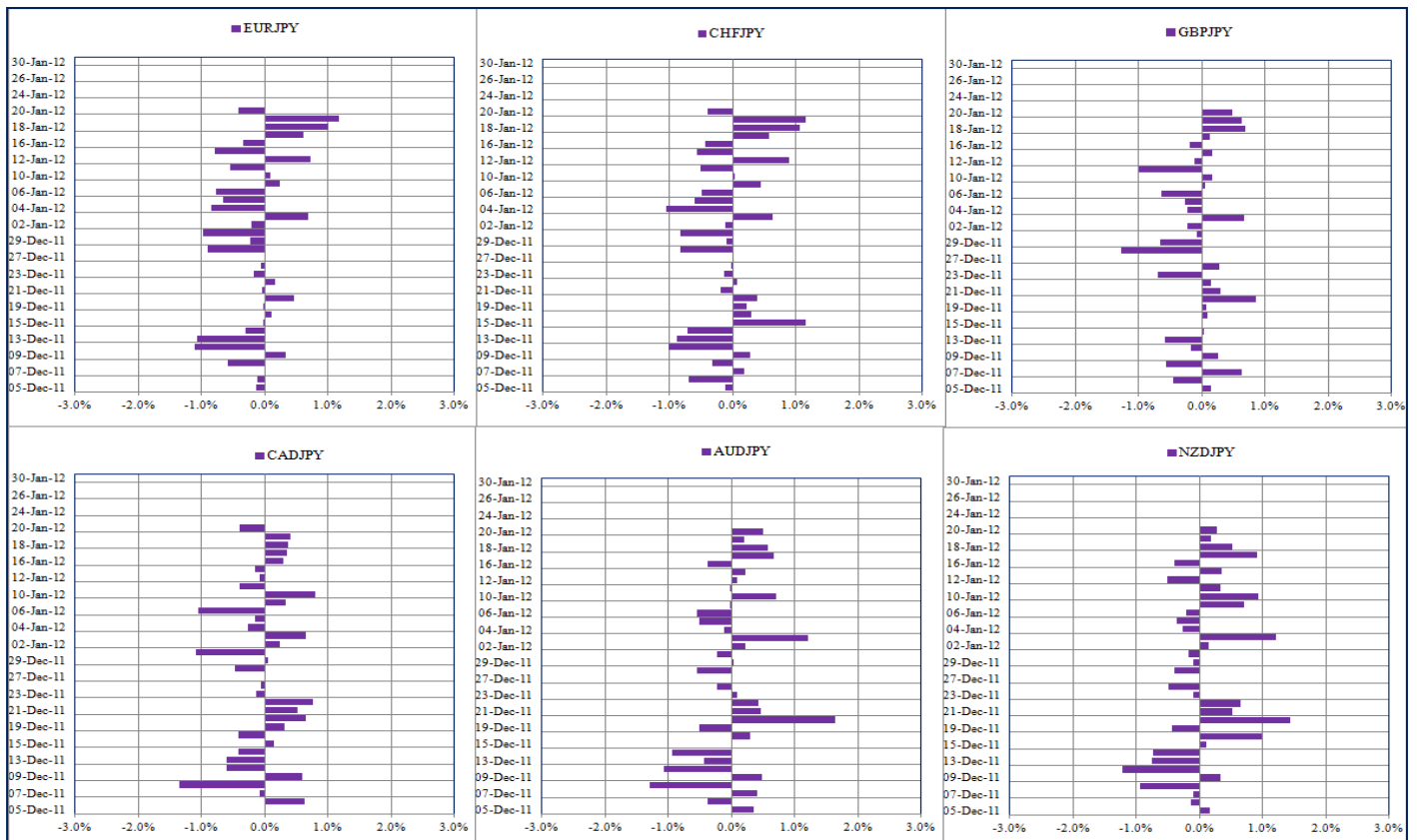
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011